

保護者の皆様

川崎市立生田中学校

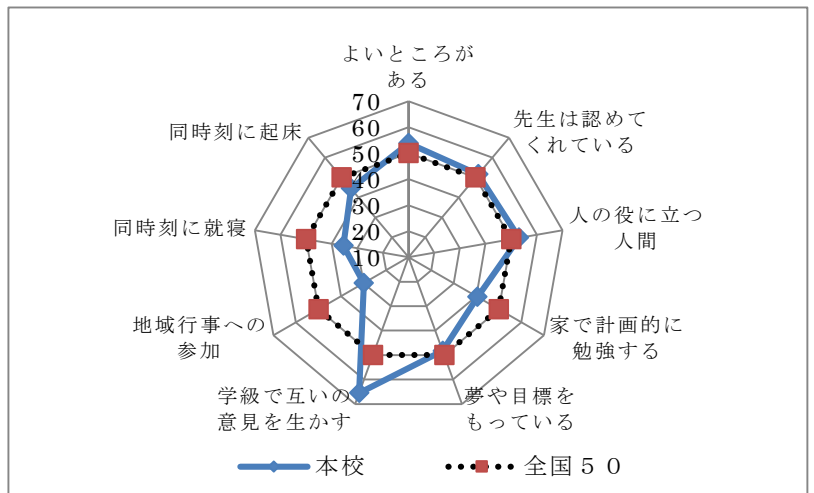
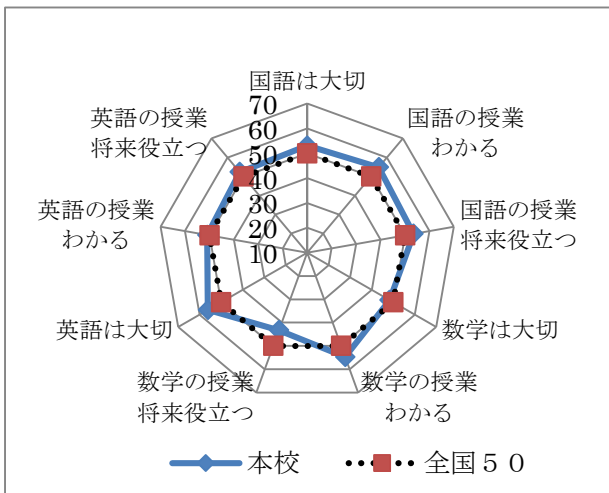
校長 小沼 謙一郎

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と生田中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。本校におきましては、『一人ひとりが自ら学び、思いやりの心と正しい判断力をもって行動できる生徒の育成』を目指して日々の教育活動に取り組んでおります。さて、先般、4月18日(木)に3年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行いましたので、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面であることが、調査の実施要領に示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。

1 調査結果概要(全国の結果を50とし、それに対する本校の結果を表わしています。)



2 調査結果をもとにした今後の取組

[] 昨年度の課題 [] 成果 [] 課題 [] 分析 [] 今後の取組

*示している数値・・・「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の合計数値 ()は全国の数値

(1) 確かな学力に関する調査結果

・国語について [昨年度の課題] 個の力がさらに向上するよう学習目標を定め、単元の特質をいかした課題を設定するなど、より「わかる授業」をめざし、実践します。

① 話し合いの流れを踏まえ、決まっていなかったことについて自分の考えを書く 71.4% (60.4%)

【生徒質問紙の内容】
① 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけ段落どうしの関係を考えながら読む 64.3% (68.4%)

「わかる授業」を目標に、単元に応じた手立て、課題設定を行い実践してきました。
① 全体的に正答率が高いことから、意欲をもって取り組んでいると捉えています。これからも、言語活動の充実を図ります。
② 国語の授業の中で、長文の単元るとき、キーワード、キーセンテンスを押さえ段の関係を捉える手立てを設けていますが、個人の取り組み方として課題が見られました。

【今後の取組】
長文読解に課題が見られたので、授業の中で一層の工夫、手立てを図り、改善できるよう取り組んでいきます。また、日常生活の中でも、「新聞を読む」「本を読む」など、活字に多く接する機会も大切だと考えます。今回の課題は国語のみならず、いろいろな分野に深く関わるので、一人ひとりの意識の向上も図りたいと思います。

・数学について 【昨年度の課題】 学び合い、話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えを表現しうまく伝えられるよう整理し、筋道を立てて論理的に説明する力を高める授業に努めます。

①総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる。81.9%(69.6%)

学び合いや伝え合う授業に力を入れて取り組んできました。

①正答率も高く、無解答率も3.2%(1.9%)と低いことから、学び合いや伝え合いの授業の成果と捉えています。

①資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。3.2%(1.9%)

①無解答率が全国平均と比べて低いことから、解こうとする姿勢はみられます。正答率が全国平均よりも低いことから数学的な表現を用いて説明をするということに課題が残りました。

【今後の取組】 生徒質問用紙の「数学の授業で学習したことは将来役に立つか」という質問に対する答えが全国平均を下回っているため、今年度を上回ることを目指します。条件を踏まえて情報を読み取る力を育てるため、情報から関係性を見いだせるように表やグラフを活用し、様々な事象の変化について式や言葉で表現して説明させるなどを意識し授業を行っています。自分の考えを表現すること、適切な文章や数学的な言葉を用いて表現することに課題が残る結果となりました。

・英語について

①「聞くこと」の平均正答率 71.0% (67.9%)
②1.2年生のときに受けた授業では即興で自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動が行われていた 79.3% (62.9%)

①②英語の「聞くこと」の平均正答率は70%と全国平均を上回っています。

英語を聞き音読する授業実践の成果だと考えられます。また「2年生までの授業で即興でのやりとりの授業が行われていた」と回答した生徒が79.3%で全国平均を上回っていることから日頃からその目的に応じて必要な情報を繰り返し行ってきた成果だと考えております。

①「話すこと」の平均正答率 25.0% (30.8%)

①「話すこと」の平均正答率は全国平均よりも低くなっています。「聞いたり読んだりしたことについて生徒同士で英語でやりとりした」と答えた生徒は全国平均を上回っているため今後さらに対話を意識した授業改善が求められます。

【今後の取組】 英語の授業において、特定の文法事項や表現を場面から切り離して指導するのではなく、目的や場面を明確にした上で自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動を多く取り入れ、その中で既習事項を活用させることで思考・判断・表現する力を高めていきます。

(2) 生活に関する調査結果

【昨年度の課題】 学び合いや深い学びに向けたキャリア在り方生き方教育を取り入れた授業をおこなうことにより、自己肯定感をさらに高めるような取り組みをしていきます。

①自分にはよいところがある。 77.9% (74.1%)
②学級でお互いの意見を生かして問題解決 87.1% (71.6%)

①②生徒が活躍する機会を多く設定し、普段の授業においても、共に考え・共に学ぶ授業を多くの教科で取り入れていることが結果に結びついたとらえています。

【地域とのかかわり】

①地域の行事に参加している。 30.5% (50.6%)

①学校では職場体験や地域の方と語り合おうの会などで地域の方と交流をしていますが、高い数値は得られませんでした。日々の忙しさからなかなか地域の行事には参加できていないと考えられます。地域のために何ができるかを生徒が主体となって考えられるよう支援していきます。

【今後の取組】 日頃から地域との関わりの大切さを学ぶ機会を学校行事に取り入れています。地域行事参加に結びついていません。また、生徒の休日の過ごし方は、部活動のあり方もふまえて改善できるように取り組んでいきます。今後も共生教育やキャリア在り方生き方教育などを意識した授業に努め、相手を尊重する気持ちや人としてあるべき姿を育むために、全教育活動を通して取り組んでいきます。さらに、地域とのつながりを大切にすることを各ご家庭にも協力を仰いでいきます。

教育委員会から

「一人ひとりが自ら学び、思いやりの心と正しい判断力をもって行動できる生徒の育成」を目指し、各教科や学級活動において、お互いの意見を生かして問題解決を図る機会を多く設定して取り組んでいることが、生徒の自己有用感を高めることにつながっているものとうかがえます。今後は、家庭や地域との連携・協力を一層進めながら、生徒が基本的な生活習慣を確立し、地域のために何ができるかを主体的に考えられるよう期待しております。

多摩区・教育担当